

令和6年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議 会議議事録要旨

日 時 令和7年2月17日（月）午前10時～
場 所 蒲郡市役所 本館3階 305会議室

1 開会

事務局より資料の確認。

2 議題

(1) まちづくり賞の選考について

・前回の報告書と違い、現状と今後どうしていきたいかが書いてあり、この状況であれば該当するのではないかと思う。

・緑の基本計画策定委員会委員として緑地の保全等とあるが、もう少し内容を知りたい。

・会員が50歳代から80歳代とのことで、若い人への働きかけについて何かあれば知りたい。

・緑の基本計画では、公園の緑化に力を入れてきた部分があったが、山友会は、公園以外の自然についても、アダプトプログラムのように市民を含めて皆で維持していく動きの必要性について働きかけをしており、実践の中でのアドバイスをいただいている。

山の関係では、カーボンニュートラルなど様々な動きが始まっており、世代を超えた融合にも興味を持っている。

また、東三河、奥三河での生態系のネットワークにも参加されて、広域での情報を持っている団体である。

・会員について、今年に入って代表に確認した状況では、40代の方が2人加入されたと聞いている。

また、推薦者の地域学校協働活動推進員さんなど、若い人とのつながりもできている他、中学校から小学校への広がりもあり、若い人へのアプローチはできていると感じている。

・蒲郡は海というイメージがあるが、昔は、遠足は山に行き身近に感じていた。受賞により今の世代の人たちにも山に興味を持ってもらえるのは良いと思う。

・代表の牧原さんは若者議会の報告会にも参加されており、若い方とも積極的に接点を作っていると感じている。

・表彰により、今後の活動に弾みをつけていただけると良いと思う。

・今回は団体の推薦であったが、代表の牧原さんは、地域づくり、防災の面でも大変協力的な方であり、個人としても推薦できる方である。

・以前に山友会と五井山に登ったが、市内、市外から多くの方が登山をされており驚いた。また、話を聞くと、山道も定期的に手入れを続けていく必要があるとのことで、山友会の活動は非常にありがたいと感じている。また、山頂にベンチを設置するなど、山登りをする方々のための環境整備もしてくださっている。

- ・ 会員として若い人を増やしたい一方で、団体には相性があり、若い人はその中でグループがあるため、悩ましいところかと思う。
- 活動を広げていく際に若い人の視点は必要だが、仲間を増やすには、活動の趣旨やどのようにやっていくかを共有していくことがすごく大事ではないかと思う。
- ・ 次回以降に向けて、この会議で選考するにあたり、推薦書の文章だけで理解することは難しいため、委員が理解しやすいように補足の資料があるとよい。
- ・ まちづくり賞を受賞した団体がその後どうなったのか、良い意味で検証する時期に来ているのではないか。受賞者のその後を確認し、今後の支援等につなげられるとよい。
- ・ 受賞団体の検証については、今後の支援策等につなげられるよう、検討していきたい。
- ・ 事業実績報告会などの際に受賞団体の活動報告があってもよいのではないか。
- ・ 山道の整備は定期的、継続的に必要になり、行政との連携も必要となる。
- ・ ある程度は市民活動、ある程度は行政課題というパターンもあるが、丸投げではなく、それぞれの強みを活かした形での協働で進められれば、持続的な活動になり得るということを考えながら進めていただきたいと思う。

(2) 協働まちづくり事業の報告について（別紙 1、2）

- ・ 助成金事業について
- ・ 協働モデル事業について
- ・ 指針推進事業について

<助成金事業について>

- ・ 笹野さんの助成金活用事例の紹介を動画で発信することもよい。
- ・ この会議のメンバーやワーキングのメンバーなどが、自身の活動を見せていくことも良いのではないか。
- ・ 今は、誰がやっているか、誰とやるのかが大事になってきており、必ずしも目的やテーマ在りきではないことを踏まえた展開も必要だと思う。
- ・ チラシについては、電子ベースで考えれば、人を入れ替えていくことなどもできる。
- ・ 油菓子の団体さんは、昨日中学生が形原神社の桜整備のボランティア活動をされた際にもお土産で油菓子を渡していた。この油菓子は、前日に形原中学校の調理室で作ったもの。形原公民館には大きな調理室はないが、こども食堂の要望があるため、改修の検討をしている。
- ・ 外国人のパーティーでは飲食や調理が付き物なので、会場には苦労している。
- ・ 公民館では主事がいる時以外は火が使えないこと、また、こども食堂の場所の課題などは聞いている。
- ・ 今年度助成金利用団体の来年度の動きについてはどうか。
- ・ まちづくりに関わり始めると、次の課題への気づきがある。

ペットと自然を守る会では、ペット防災について提案されたが、その後、行政や自治会での動きが始まりつつあり、団体が応援に入っている。自治会などの動き

が活発になれば、次の課題に対して地域と上手く連携していけるかが課題となってくる。

がまごおり親の会では、映画会の開催が台風で延期となり、当初の市民会館から形原公民館に変更となった。参加いただいた形原の総代さんと話をする中で、地域の役員さんが地域のグループホームを知らないことが分かった。

4/1 から厚生労働省のルールが変わり、障がいを持っている人たちのグループホームの運営における評議員のようなものに地域の方々に入ってもらいたいという運用に移行するが、総代さんと話をする中でも、映画により理解が深まっていたため、協力をいただくことができている。

- ・形原地区防災計画を策定しているが、次の展開として、避難所でのペットの対応などが検討課題として挙がっており、ペット防災の動きは地域でも広がっている。

- ・公民館での調理が難しいとの話があったが、防災の観点で、炊き出しの場所が足りるのか等心配がある。

- ・自分にとって、地域にとって大事なこと、例えば、障がいに対する理解、外国人に対する理解に関しても、どう支援するのもあるが、他方で私たちがどう認識するのもあり、またその中で、民間の企業がどう対応するものもある。

やるべき話はいっぱいある中で、必ずしも助成金の応募になっていないが、見えていない面もあるのかなと感じている。

- ・調理の場で困っているなら、飲食店の協力を得ることも考えられ、つなげること、中間支援が大事ではないか。

- ・場所だけでなく、人も含め、自分たちだけで何とかするのではなく誰かに相談しながら、情報共有しながら進めればよいのではないか。

- ・賀詞交歓会で知り合った蒲蛙という若いサラリーマンの団体は、銀座祭りを復活させ蒲郡を盛り上げたいとの思いがあり、自分のしたいこととつなげられないかと模索している。

- ・まちづくりセンターに行くことも一つだが、いろんな人をつないでいる人を紹介する、外向けに見せていくことも必要ではないか。

- ・地域活動や市民活動の活動範囲が広がっていく一方で、公民館の設備や体制が対応できていないことは課題だと考えている。

- ・従来の発想だと地域の公民館の調理室を借りてというイメージがあるが、公共施設に設備していく時代ではないことを考えると、そこに捉われずに民間の飲食店など、地域の資源を活かすことも考えてもよいのではないか。

<協働モデル事業について>

- ・若者議会活動については今後どうなっていくのか。一つは民としてどうやっていくのか、また、行政としてどうしていくのか。

新城市では、若者議会で若者の居場所づくりを提案し、予算がつき、自分たちで進めている。いろんな形で人と思いをどう活かすのかについては色々と考える余地があるのではないか。

これまで蒲郡若者議会に関わってきた人たちが次のステップとしてどのように

していくのか。

- ・モデル事業を通して若者参画施策の検討いただく中で、課題として、若者自身が活動をしていくためには若者が集まる場所が必要ではないか、また一方で、行政としては若者の視点でまちづくりを考え意見を言っていただく切り口のものも必要ではないかということであった。

次年度は、行政としての立場を踏まえた若者のまちづくり参画の仕掛けができないか、こういった取組がいるのか検討する協議体を作っていきたい。

また、若者が自主的な活動や交流ができる場、ギルドのような形のものの環境づくりの検討など、どういう取組ができるのか整理していくことを、今回の提言を受けて、市としても考えていきたい。

<指針推進事業について>

- ・福祉実践教室はどの程度のものを考えているのか。

- ・1/6 に愛知工科大学で実施した際は、社会福祉協議会の協力があり、豊川の専門学校先生にお願いをし、車椅子の押し方や介護の軽減に関するテーマで講義いただき、車椅子に乗る側、サポート側の体験や介護の心構えなどを学ぶ内容であった。

今後は、商工会議所など企業などでもできるような形で、車椅子に限らず、視覚や聴覚の障がいの方への対応など、テーマを決めて進められるよう検討している。

(3) 令和7年度協働まちづくり事業の予定について（別紙2）

- ・今何件か相談がある事業が少しずつでも形になってほしい。
- ・まちづくり賞受賞団体の展開も見ていければと思う。

3 その他

<次回会議予定>

- ・第1回 令和7年5月頃